



—第16号—

地域・だいがく連携通信 —神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町 1-1
TEL : 078-803-5427
FAX : 078-803-5389
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

神戸大学・神戸新聞社連携シンポジウム 「つなぐ いかす 地域の力～篠山からの挑戦～」

平成 26 年 12 月 7 日 (日)、本学と神戸新聞社の連携シンポジウムの第 2 弾として「つなぐ いかす 地域の力～篠山からの挑戦～」が、篠山市民センターで開催されました。



午後 1 時から開かれたシンポジウムでは、まず内田 一徳 神戸大学理事が、「神戸大学の篠山市での活動を題材に、農村部を中心とした地域振興の具体的な取組に焦点を当て、行政、新聞社、大学、住民といった多角的な視点からその課題と可能性を探っていきたい」という趣旨説明を行いました。続いて、酒井 隆明 篠山市長により「篠山の挑戦」と題する講演が行われ、農業や美しい自然、文化に立脚したまちづくりに向けた、篠山市の取り組みについて説明がありました。

その後、布施 未恵子 神戸大学農学研究科特命助教から「篠山の挑戦を支える大学の役割」と題した講演が行われ、篠山市を教育・研究のフィールドとした大学の様々な活動に触れつつ、その活動の地域住民の方への影響についてお話がありました。

続いて地域住民の方を代表して、北山 透 西紀南まちづくり協議会事務局長、新聞社から、井垣 和子 神戸新聞社丹波総局記者より個別報告が行われたのち、大国 正美 神戸新聞社企画総務局長および奥村 弘 神戸大学地域連携推進室長をコーディネーターに、酒井 隆明 篠山市長、大学側から高田 哲 保健学研究科教授、中塚 雅也 農学研究科准教授、布施 未恵子 農学研究科特命助教が加わり、現在行っている取り組みの課題やその広がり可能性、また新聞社への期待や役割について意見交換が行われました。

神戸大学と神戸新聞社は、産学官連携を軸に、研究と教育・社会奉仕の両面で、人口減少や高齢化の進む地方自治体との協働による地域への貢献に取り組んでいます。このたびは、産学官連携の記念として、第 2 回シンポジウムを開催し、篠山市民センターにおいて地域と協働を促す取り組みを行いました。



神戸大学・神戸新聞社連携シンポジウム
つなぐ いかす 地域の力
篠山からの挑戦

当日参加OK 入場無料

日時 2014年12月7日(日)
13:00~16:40

場所 篠山市民センター

懇親会 17:00~18:30
会場 篠山市民センター
懇親会費 3000円(予定)

神戸大学と神戸新聞社は、産学官連携を軸に、研究と教育・社会奉仕の両面で、人口減少や高齢化の進む地方自治体との協働による地域への貢献に取り組んでいます。このたびは、産学官連携の記念として、第 2 回シンポジウムを開催し、篠山市民センターにおいて地域と協働を促す取り組みを行いました。

神戸大学 神戸新聞社

市長と学長との懇談会を開催

平成 26 年 12 月 16 日 (火)、神大会館六甲ホールで第 26 回「市長と学長との懇談会」が開催されました。これは、神戸市長と神戸市内に大学を有する学長が集まり、意見交換を行うもので定期的に開催されています。今回は、本学地域連携推進室の奥村室長が懇談を進行し、①大学の枠を超え、学生や教員等が交流、創造、発信できるための仕組み、②学生が地元企業を知るための仕組み、③若者に魅力的な「まち」であり続けるための神戸のブランディング戦略等について議論を広げました。



「第一次世界大戦開戦 100 年と青野原捕虜収容所 一箱庭の中央ヨーロッパ」展

オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム・神戸大学・加西市・EUIJ 関西 主催 展示会

第一次世界大戦開戦 100 年と 青野原捕虜収容所

箱庭の中央ヨーロッパ

第一次世界大戦 (1914-1918) において、日本もドイツ領地の青島 (チンタオ) に派兵し、そこでの戦期によって、多くのドイツ兵とオーストリア=ハンガリー兵を捕虜としました。日本国内に作られた捕虜収容所の一つが兵庫県青野原 (現在の加西市・小野市・加東市にまたがる地域) にあり、この青野原捕虜収容所には特にオーストリア=ハンガリー兵の多くが収容されていました。ここに中央ヨーロッパの多民族社会が「箱庭」のように出現することになったのです。

今年世界第一次世界大戦開戦から 100 年にあたり、世界各国で記念事業が行われています。その中で、神戸大学、オーストリア大使館、加西市、EUIJ 関西は共同で「第一次世界大戦」をテーマとする展示会を開催いたします。

会場
神戸大学百年記念館 1 階展示ホール
(神戸大学六甲台第 2 キャンパス内)

期間
2014 年 11 月 10 日 (月) ~ 11 月 28 日 (金)
(土・日・祝日は除く、開場時間 10:00 ~ 17:00)

オーストリア大使館
オーストリア文化フォーラム

連絡先: 神戸大学地域連携推進室
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
Tel: 078-803-5427 Fax: 078-803-5389
E-mail: ksui-chikik@office.kobe-u.ac.jp

入場無料

第一次世界大戦期、兵庫県の青野原 (現兵庫県小野市と加西市にまたがる地域) には、捕虜収容所があり、ドイツ兵、オーストリア=ハンガリー兵たちが収容されていました。本学人文学研究科地域連携センターでは、地元の市史編纂時に発掘された資料をもとに、当時捕虜たちから伝えられた生産品や文化などを継続して調査してきました。その成果は、2005 年以来、再現コンサートや展示会を通じて、学内や地域に還元してきました。

今回、オーストリア大使館からの全面的な支援のもと、第一次世界大戦開戦 100 周年記念企画として、神戸大学、オーストリア大使館、加西市、EUIJ 関西の共催で「第一次世界大戦開戦 100 年と青野原捕虜収容所—箱庭の中央ヨーロッパ—」展を開催しました。また、これに関連する演劇及び演奏会を行いました。

10 月 30 日 (木) に開催された開会式では、駐日オーストリア大使のベルンハルト・ツインブルク氏、福田秀樹神戸大学長、西村和平加西市長、EUIJ 関西の井上典之代表 (神戸大学理事・副学長) の挨拶のあと、展示企画責任者の大津留厚教授 (人文学研究科) より展示会主旨とセレモニー企画の解説がありました。

その後の観劇会では、オーストリア女優のマクシー・ブラーハ氏により、女性初のノーベル平和賞受賞者、ベルタ・フォン・ズットナーをテーマにした「一人劇」が行われ、集まった 160 人以上の観衆の方々に時代・国籍を超えた感動を与えました。

また、11 月 12 日 (水)、出光佐三六甲台記念講堂にて開催した「音楽会~音楽の架け橋」では、オーストリアから来日中のバイオリン・ソリストのウルリケ・ダンホーファー氏と、神戸大学交響楽団が協演し、学生や教職員、地元の方々が、当時を再現した曲目にじっくりと耳を傾けていました。



歴史文化をめぐる地域連携協議会 —改めて地域歴史遺産を問い直す—

平成 27 年 1 月 31 日 (土)、滝川記念学術交流会館において、「第 13 回歴史文化をめぐる地域連携協議会」が人文学研究科の主催で開催されました。



当日は、学内外より 80 名ほどの参加があり、現在、協定に基づき連携先の自治体で市史編纂に取り組んでいる研究員や、今まで人文学研究科地域連携センターとともに市史編纂や地域の資料保存に取り組んできた学外の方から報告がありました。「改めて地域歴史遺産を問い直す」というテーマで開かれた今回は、歴史資料の分析によって得られた学術成果を地域のまちおこし等に活用する際に出てきた新たな課題について、いくつかの事例を交えながらどのような解決糸口があるかなど参加者の中で活発な議論が行われました。

保健学研究科地域連携センターの取り組み

第10回 保健学研究科地域連携センター報告会



保健学研究科地域連携センターの1年間の活動を報告するため、2月7日(土)、報告会が兵庫県民会館で開催されました。前半では①映画で学ぶ特別支援教育、②双胎児の育児と母親、③高齢者・認知症の人と家族への生きがい支援活動報告が、後半では④障害者施設でのボランティアを通して、⑤地域活動センターわかばにおける認知リハビリテーションの紹介、⑥北須磨地域在住高齢者との関わり、以上6件の報告が行われました。

保健学研究科では、このような報告会を平成17年度からはじめ、今回で10回をむかえました。近年は、院生・学生を主体とした活動が多く報告されています。特別支援教育に取り組む社会人研究員の報告、母親の育児負担、高齢者支援など、取り組みの広がりがうかがえるものとなりました。

災害時の要援護者に対する支援セミナー ～東北から神戸に～

大規模災害時、重い障害を持つなど要援護者と呼ばれる方には、避難方法やその後のケアに多くの配慮が必要となってきます。これらの課題をテーマに、2月22日(日)、保健学研究科地域連携センターと都市安全研究センターが主催し、ラッセホール(神戸市中央区)で、「災害時の要援護者に対する支援セミナー」が行われました。阪神・淡路大震災を経験した神戸大学と東日本大震災被災地の東北大学、宮城教育大学など大学や自治体が協力して、情報を整理し、共有化を行い、さらに新しい対応法を考えるために開かれたものです。

神戸大学保健学研究科の高田哲教授は、阪神・淡路大震災時の経験が十分に生かされていないこと、在宅での要援護者が急増している一方、支援システムの理解が進んでいないことを取り上げ、情報共有の重要性と共に、とりあえずできることとして、個別の避難計画の作成やそれを学校等と共有することを提言しました。

第9回 篠山市・神戸大学地域連携フォーラム

平成27年1月24日(土)、篠山市城東公民館において、篠山市・神戸大学地域連携フォーラムが開催されました。これは、篠山市で地域連携活動を行ってきた方々の1年の総括として、活動の報告や意見交換を行う場となっています。

プログラムの前半は、人文・保健学・農学研究科地域連携センターの活動報告や、発達ESDサブコースの概要、農学研究科伊藤一幸教授による講演がありました。後半は会場を別にして「実践農学入門」や「実践農学」の実習の一環で、定期的に篠山市で活動した大学1・3年生や、篠山で活動する学生団体によるポスター発表がありました。参加者は、地域おこしのためにどんなことができるかといった学生ならではのアイデアや、自らが行ってきた活動について発表する様子を、参加者が熱心に聞き入りました。また、会場には参加者がツイッターでつぶやいた感想をスクリーン上に映し出す仕掛けがあり、それぞれの思いをリアルタイムで共有しました。



平成 26 年度地域連携活動発表会

「地域連携一次の一步を考える」

平成 27 年 1 月 29 日 (木)、瀧川記念学術交流会館にて平成 26 年度地域連携活動発表会が開催されました。第一部では、地域連携事業及び学生地域アクションプランに採択した教員や学生による活動報告が行われた後、地域連携推進室の今年度の活動について報告がありました。第 2 部では、「地域連携一次の一步を考える」をテーマに、京都大学から江上直樹特定助教をお招きし、京都大学のCOC事業について発表いただきました。現在、各地で「地方創生」への取り組みが模索されているなか、大学だけでなく、自治体や地域の企業や機関等とともに地域の将来について考えることが大切であるなど、今後の本学の地域連携活動について考えるよい機会となりました。



活動報告 (2014 年 10 月～2015 年 2 月)

| | |
|-----------|--|
| 10 月 03 日 | 篠山市・神戸大学連携推進協議会 |
| 08 日 | 青野原俘虜収容所展 2014 (仮称) 実行委員会 |
| 10 日 | 第 8 回大学連携実務者会議に参加 (神戸市) |
| 14 日 | 神戸新聞社来訪、意見交換 |
| 17 日 | 一般財団法人住吉学園来訪 |
| 22 日 | 中津市議会議員来訪、意見交換 |
| 30 日 | 青野原捕虜収容所展 開会式及び観劇会 |
| 11 月 06 日 | フォーラム「アツイ協働 明日をつむぐ～阪神・淡路大震災から 20 年」に参加 第 2 回大学と新聞とつなぐ夕べに参加 |
| 10 日 | 展示会「第一次世界大戦開戦 100 年と青野原捕虜収容所―箱庭の中央ヨーロッパ―」 開始 (～11 月 28 日まで) |
| 11 日 | 文部科学省訪問、意見交換 中津市役所若手職員来訪、意見交換 |
| 12 日 | 青野原俘虜収容所展 音楽会「音楽の架け橋」 |
| 12 月 07 日 | 神戸大学・神戸新聞社連携シンポジウム「つなぐいかす 地域の力～篠山からの挑戦～」 |
| 16 日 | 第 26 回市長と学長との懇談会 (於：神大会館六甲ホール) |
| 19 日 | 平成 26 年度第 2 回地域連携推進室会議 |
| 1 月 9 日 | 震災復興支援・災害科学研究推進室第 3 回シンポジウムに参加 |
| 24 日 | 第 9 回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム開催 (篠山市) |
| 29 日 | 平成 26 年度神戸大学地域連携活動発表会開催 (瀧川記念学術交流会館) |
| 30 日 | 加西市情報審査会に参加 平成 27 年度「地 (知) の拠点整備事業」事業説明会に参加 |
| 31 日 | 第 13 回歴史文化をめぐる地域連携協議会開催 (人文学研究科地域連携センター) |
| 2 月 6 日 | 加西市情報審査会に参加 |
| 7 日 | 第 10 回地域連携センター報告会開催 (保健学研究科地域連携センター) |
| 19 日 | 第 10 回大学連携実務者会議に参加 (神戸市) |
| 22 日 | 第 4 回災害時の要援護者に対する支援セミナー (保健学研究科地域連携センター、都市安全研究センター) |